

街を支える外国人たち

朗読者 中澤裕子

厚生労働省によると、日本で働く外国人は5年連続で増えていて、コンビニや飲食店、建設現場や製造業など、様々な職種で深刻な人手不足を補っています。

5 ネパールのサラさんは、日本のコンピュータ会社に就職する夢を持ち、専門学校に通いながらコンビニで働いています。「日本語が上手になりたかったから」と言うサラさんは、接客業で日本語の会話を覚えていったのです。

10 同じく、コンビニで働くスマリカさん。ホテルサービスの専門学校に通いながらアルバイトをしています。卒業後は日本のホテルで働き、そこで学んだことを、母国ネパールのホテルでサービス向上に活かすことを目指しています。

15 二人を指導する店長の田中さんはこう話します。「うちのコンビニには、外国人スタッフが、日本人の倍以上います。母国語の通じない日本で、勉強のためにと、働く彼らを尊敬します。日本とネパールとは、時間や約束に対する感覚が少し違いますが、仕事ぶりは本当に真面目です。言われたことをきちんとやるし、手を抜かない。英語も全員堪能ですし、とても助かっています」と笑顔で話してくれました。

20 サラさんは「ネパールでは、一家で一人働けば生活できるけれど、日本人は家族みんなが自立して働いていてすごい。私も頑張ります」

と瞳を輝かせます。スマリカさんは「日本人はみんな優しくて真面目で、時間に几帳面ですね。私も最近では遅刻していませんよ」と笑います。

25

将来の仕事を見据え、来日する外国人が年々増えてきています。しかし、日本語のおぼつかない外国人スタッフを、強い言葉で責める日本人の態度が話題になることがあります。また、一部の外国人留学生や技能実習生が、違法な長時間労働や低賃金で働かされているなど、人権に関わる問題が報道されることもあります。

彼ら外国人も、私たちと一緒に福岡の街を支える「大切な仲間」であることを忘れず、お互いが生き生きと生活し、働くことができる社会をつくっていききたいですね。